

平成20年3月13日（木）

日程第29 議案第14号 平成20年度橋本市
一般会計予算について

○議長（中上良隆君）日程第29 議案第14号
平成20年度橋本市一般会計予算について を
議題といたします。

これより質疑を行います。

便宜、予算説明書により歳出から款別に行
います。

40ページをお開きください。

まず、1款、議会費、40ページから43ペー
ジまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中上良隆君）ないようですので、次
に、2款、総務費、42ページから85ページま
で、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中上良隆君）ないようですので、次
に、3款、民生費、4款、衛生費、84ページ
から145ページまで、質疑ありませんか。

14番 土井君。

○14番（土井裕美子君）4款、衛生費、125
ページの1413、保健福祉センター建設に関す
る経費の13番委託料、基本設計委託料として
の500万円でございますけれども、この基本設
計委託料というのはどのような形というか、
私ちょっと建設のこととかあまりよくわかっ
ていない部分がございますので、保健福祉セ
ンター単体としての基本設計をしてしまう
ということでしょうか。

12月議会のときにも一般質問の中で、単体
ではなくできたら複合施設というような形でも
ご検討いただきたいというような意見も述べ
させていただいたんですが、これはもう設計
してしまうとそれからは全然触れないのか
どうかというようなところをお聞かせいただ

きたい。

○議長（中上良隆君）理事。

○理事（塚本 基君）基本設計につきまして
は、基本的な物の考え方で、その施設をどう
いうふうに使っていくかというふうなことも
踏まえて、担当課ともども基本的な考え方で
施設の概略プランニングを詰めていくという
ふうなことになろうかと思えます。

ただ、今、土井議員言われおりますような
複合施設になるかならんかということにつき
ましましては、この基本設計を作成する段階で盛
り込んでおくべきであろうというふうに思い
ますので、一旦基本設計ができますともう遅
いというふうなことになろうかと思えます。

○議長（中上良隆君）ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中上良隆君）ないようですので、次
に、5款、労働費、6款、農林水産費、7款、
商工費、144ページから171ページまで、質疑
ありませんか。

3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）171ページをお願いしま
す。簡単に申し上げます。

負担金補助及び交付金の中で、紀の川祭の
補助金が前年度1,200万円に対して、本年度半
減して600万円というふうになっております。
カップまつり等も同じような扱いになってい
るんですが、これはどう、これだけの予算を
減額して、橋本市最大のイベントと呼ばれて
いるんですが、どのようにしてやっていこう
とお考えなのか。私、大分昔ですけれども、
寄附集めもさせてもらったことあるんですけ
ど、なかなか大変だと思っておるんですが、
お尋ねします。

○議長（中上良隆君）財政課長。

○**財政課長（北山茂樹君）** 富岡議員のご質問にお答えいたします。

現在、補助金のあり方等を見直すということで、平成19年度におきまして、補助金交付基準等を作成した次第でございます。20年度につきましては、各団体からの補助金申請に基づきまして、審査会において審査をした上で最終的に補助金を確定するという手順を踏んでおりますので、今回、当初予算では年間の2分の1相当額しか予算は組んでおりません。審査会の結果を得まして6月補正で満額の補助金を確定していくという考え方で、各団体の補助金につきましては2分の1とさせていただきます。以上でございます。

以上でございます。

○**議長（中上良隆君）** 3番 富岡君。

○**3番（富岡清彦君）** ちょっとわかりにくいんですけど、いかにも物件費等を、これ全体、今度今までの予算組みと違う方法で組んでいますよね、20年度からやると言っていましたね。各課配分式でしたか、ちょっと名称あれなんです。それだったら、形だけというのか、数字だけ全体で予算が削減されたということにはならないんでしょうか。

それと、紀の川祭の補助金に関しては、1,200万円に補正で戻すということですか。その点、確認します。

○**議長（中上良隆君）** 財政課長。

○**財政課長（北山茂樹君）** 今回の枠配分とこの補助金については全く関係がないということになるかと思えます。といいますのが、6月に最終的に年間の予算を確定させていただきますので、先ほど言いました紀の川祭につきましては審査会の上で審査した結果、1,200万円、前年度と同額ということの結果であれば、残り600万円を6月補正でさせていただくということになるかと思えます。

それは各団体の補助金につきましても同様

でございます。

○**議長（中上良隆君）** ほかにありませんか。

5番 中西峰雄君。

○**5番（中西峰雄君）** 今の171ページ、同じページなんですけども、公園管理に要する経費の公園管理委託料等、ここの部分と、それと道路維持費、ですから175ページ、この部分で要するに草刈りの費用がかなりあると思うんですが、この草刈りに使われた枯れ草の処分費用はいかほど見積もられておられるのかということをお教えください。

○**議長（中上良隆君）** 建設部長。

○**建設部長（坂本信良君）** 草刈り処分、たくさんありますので、ちょっと答弁保留をさせていただきます。以上でございます。

○**議長（中上良隆君）** ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**議長（中上良隆君）** ないようですので、次に10款、教育費、206ページから259ページまで。

質疑ありませんか。

5番 中西峰雄君。

○**5番（中西峰雄君）** 付せんがついてないので、これもさっきの説明と同じかなと思うんですが、図書館はどこでしたかな。235ページですが、ここも備品購入費の図書費が702万2,000円となっております。図書費については、従来橋本市は1,000万円を確保しておったと思うんですが、これについてどのようなことなのか説明願います。

○**議長（中上良隆君）** 財政課長。

○**財政課長（北山茂樹君）** 図書費でございますけども、例年より約300万円ぐらい減額させていただきます。歳出の削減の中で、一応今回財政の厳しい折でございますので、今年度700万円とさせていただいたわけでございます。

○**議長（中上良隆君）** 5番 中西峰雄君。

○5番（中西峰雄君）理由はよくわかりましたけども、納得できません。もともと橋本市の図書費はこのぐらいの規模のまちとしては大変少ないです。類似の市と比べたとき、もともと少ない。図書費ももともと少ないんです。もともと少ないやつをさらに少なくして、文化の中心の図書のお金を削っていくというのは、本当に残念といいますか情けないといいますか、ですので、ほかのどの予算も大事と言えば大事なんですけども、こういう予算は削るべきではないというふうに私は考えますが、市長さんいかがでしょうか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）中西峰雄議員の質問にお答えしたいと思います。非常に予算編成の中にありまして、非常に厳しい状況になっておるわけでございます。したがって、文化の面も非常によくわかるわけでございますが、300万円台ですか、削減、図書費を減らさせていただいたということでございますが、振り返ってみますと、これは答弁とは別かわかりませんが、私、昭和55年に文教委員長をさせていただいておるときに、財政が窮迫していました、今と同じように。図書費がせんど三浦市長にお願いして50万円、当時、だいたい物価で比較したらわかると思うんですが、50万円が天でございまして、いたし方ないから市報を通じまして図書を市民に呼びかけて、古い図書を全部寄せさせていただいた。2年ほど続いたと思うんでございますけども、そういう苦渋のなにかあって、市内の本屋が3軒あったものですから、大分毎日通って、さらの本ですけども、年度の古いやつとかというようなこと、何千冊というものを収集させていただいた。そういう厳しいときを乗り越えて今日があるわけでございますけれども、これで十分満足とは私は決して思っ

ませんので、ひとつできるだけ今期はこういう形でまいらせていただきたいな。ほかにこれの対策についてどうしていくかということも視野に入れて、今後に備えたいと思っておるわけでございますので、ご了承をいただきたいと思います。

○議長（中上良隆君）ほかにありませんか。

16番 中谷晋君。

○16番（中谷 晋君）詳細な質疑は予算委員会に委ねます。1点だけ、246ページの16目、地区公民館費について、費用ではございませんけれども、高野口の公民館については、20年度から新たな機能を要求されております。そういう観点から、市長部局と教育委員会部局が同居するような格好になると思うんです。

例えば、地区公民館という名称で工事看板を1つはかかると思っています。それはそれで公民館活動の拠点になるという認識でおりますけれども、片や住民票とか印鑑証明とか、そういうものが自動交付される、そういう支所的な機能を習得できる人員配置ということで私が要求してきた経緯がございます。そういうことで、2つの機能を有する施設の中で、市長部局の表示が必要ではないかという認識で質問をさせていただいております。

その辺を、詳細についてはまた予算委員会のほうで鋭意議論していただいたらいいと思いますけれども、必要であるという認識で私が質疑させてもらっているんで、ひとつその点だけについて、大まかなことで結構ですので、ご答弁いただいたら。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）高野口の公民館につきましても、合併のときの決めで、高野口公民館に福祉関連機能を付加した、するということになってございます。ということで、あくまでも公民館でございます。そういうことで、職員についても公民館職員ということ

です。窓口業務、それから福祉関係の案内とか、相談業務、市民課の案内相談業務というのを人を配置していくような形でございます。

ということで、特にそこに付加の機能がございまして、それを新しい名前を入れるというのはすべきではないというふうに考えてございます。というのは、旧の橋本にある紀見北地区公民館につきましても、自動交付機がございまして、ということで、それが支所的な機能という解釈はしてございません。あくまでもサービスの中でやっていることとございまして、それで支所的な機能を有したような名前をつけるのはいかがなものかというふうに考えてございます。

○議長（中上良隆君）ほかにありませんか。

23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）240ページの児童館費なんですけども、これも前年度と比べて849万5,000円、かなり減額されておりますね。そこへ出して減額した上に241ページの修繕料771万4,000円かな。これ入れてでしょう。これ4館あるのかな。児童館の事業に要する経費というのは、これが161万6,000円、下にありませんやろう、事業経費。何するんですか、これで。4館、減額し過ぎとるんやけど。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）まず1点目の児童館管理に要する経費で減額、対前年度に対して大きいんじゃないかというのは、主な理由は、前年度は公共下水道工事という格好で工事請負費を1,320万円、当初予算でいただいております。それが19年度で完了しましたので、20年度には工事請負費が計上されておられません。大きな減額理由はそれが1点です。

それから、児童館事業に要する経費って何をやるのかということなんですけども、これの主な事業ははらだ子ども館で夏季の水泳教室等

を主に見込んでおります。それに伴います水道料、それから下水道料、その他、主なものはそういうことなんですけども、一般的には児童館で子どもの遊びのための事業講座をやっております。

以上です。

○議長（中上良隆君）ほかにありませんか。

21番 上久保君。

○21番（上久保 修君）235ページの先ほども出ておりましたけども、まず委託料の移動図書館の運転業務の委託料、これ126万8,000円、先ほどの補正でも減額されておりましたし、これやっぱり市民の皆さんが楽しみにしておられる部分もありますし、回数がまた減っていくのかなというふうにも思いますんやけども、そこら辺の運行の業務にどのように変わっていくのかなというのが1つ心配しているのと、やはりこの備品購入費のずっと1,000万円まで予算が組んでこられたやつがほんまに3割カットの700万円ということで、最近いろいろと当局も学校のコンピュータの整備に関してすごいしていただいたの、よく本当に感謝とか、理解しているんですけど、子どもたちがやっぱり図書の検索もこれからますます上がっていきますし、予算委員会でも恐らくこの件についてはあれされると思いますけども、今まで1,000万円で蔵書計画されておったんですけど、700万円で果たして蔵書計画の部分でどこかに支障を来してくるのと違うかなというふうに思うんですけども、ここら辺をどういう計画でされておるのかなというふうに、ここの場では聞いておきたいと思えました。答えられますか。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）図書費の減額については、先ほどから財政課長、それから市長のほうでご答弁いただきましたけれども、とにかく20年度は予算付けをいただきました

702万2,000円の中で、年間の、これからですけども、購入計画等々立てていかざるを得んかなと、今現在ではそう思っております。できるだけ中身の濃い図書の実に努めていかざるを得んのかなというふうに思っております。

それから、移動図書館の運転業務委託料については、前年度と若干ですけども、わずかな減額、これは去年の実績に基づいての予算要求でございますので、今までどおり、学校にも回っていただいておりますので要望、ステーションの数は増えてございます。より充実していきたいと、このように考えております。

○議長（中上良隆君）23番 井上君。

○23番（井上勝彦君）もう一回述べさせてもらおうと思うんだけど、上久保君にちょっと途中で早く入られたので、十分、このことについて話を意見を述べたいと思ったんですけど、児童館のほうに戻らせていただきます。

これ、今、次長から児童館事業に対する経費、水泳とかそういう教室が中身のものやということやけど、岸上にまいます。これ4館あるでしょう。4館あるのと違いますか。4館のことを指して、全体の予算だと思っておりますけども、この児童館もこのまま継続しておりますけど、要するに年間の中身というんですか、活動というんですか、そういうのを結局どういう形でこれから継続していくのか、合併までは2館はもう閉じちゃったですね。一応、事業としてはやっていなかった。橋本市に合併をしてから児童館が2館、一応やっておりましたので、要するにもともとまたあけるようになったと。ほんで、あけるのはいいんですけども、中身としては予算を組んでいく以上は、施設をどういうふうな形で充実していくのか、また、させてきたのか、今後もどういう点で大事かということをきち

んと基本的に押さえとかんと、この予算というのは少な過ぎるのもあるし、また、やり方によっては少な過ぎるのもあるし、中途半端なやり方であれば、僕はちょっとおかしいと思うんですけども。

そここのところ、この予算の組み方について、やっぱり成果というんですか、要するに、それぞれのところでやっぱりかなり活動も進んでおりますし、それは中身について私は自分自身はよく知っているつもりなんですけども、もっとそういう館を生かしていくそういう事業を展開していく館にしていくおつもりか。要するに、この館そのものの、いっぺん次長も回ったことありますか、施設。そんな危ないですやろう。名古屋児童館なんかやったら、入ったら真っ黒なりで壁もぼろぼろめくれてきて、そういう児童がまともに活動できるような施設じゃないと思うんですよ。そういうところで、ただ予算をもっと充実させていくということになれば、どういうようにしていくかということ。

例えば、学童保育が小学校の校庭内にはあるわけなんですけども、要するに学童保育的な活動もやっている施設ありますね。学童保育的な。そういうふうな形で、全般的にその結局やっていくおつもりか。このままでずると、僕はちょっと納得いかんですけど。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）私のほうでお答えになるかどうかわからないんですけども、児童館は議員ご存じのように、子どもの健全な遊び場の提供という格好で事業運営をやっていただいておりますし、また、4館協働で移動児童館という格好で各小学校を回って子どもたちに遊びとかいろいろ工作等々の指導を行っていただいております。

このままでいかかどうかって、予算額のことでもっと充実せよというご指摘かと思うん

ですけれども、それはいただけたらいただけるに越したことはないと思いますけれども、全体の予算の中で粛々とやっていきたいと思っております。

それから、名古屋の児童館の場所等々につきましても、もちろん立地的なこともございまして、駐車場等々もございませぬし、大変狭隘な施設であるということは重々わかっておるわけですが、そこまで今建物の改修どうのこうのというところまで、友愛児童館にしても老朽施設というのは承知しておりますけれども、そこまで手を加える体力がないという状況でございますので、ご理解をいただきたい思います。

それから、児童館の中で学童保育事業をやっていく計画はあるかというご指摘ですが、今のところはそういう計画はございません。

○議長（中上良隆君）ほかにありませんか。

9番 上田君。

○9番（上田良治君）教育費255ページの学校給食に要する経費でお尋ねしたいんですが、ここに食の安全が今ささやかれている中で、中国の冷凍食品、そういったものが非常に危険な状況であるということで、本市としては中国からの入れておる冷凍食品等は少ないということなんですが、今ガソリンの価格、石油も高騰しておる中で、いろんなめん類とかあるいはパン、野菜、果物が上がってきておる中で、今後、学校給食については今保護者負担をしていただいている中で、維持していけるのかどうか、他市の自治体を見ますと、値上げを余儀なくされて、20円、30円ないし上げておるところもあるということで、朝からいろいろと値上げ、値上げで耳に焼きついている中で、一体今後どういう状況でいけるのかお聞きしたい。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）まず1点目に、恐縮ですけれども、中国産の食糧を使っておるのは少ないというようなご指摘がございましたけれども、先の一般質問でお答えさせていただきましたように、私どもでは中国産の食糧は使用いたしてございませぬので、よろしくご理解いただきたいと思います。

それから、給食費のことにつきましては、議員ご指摘のとおりいろいろ小麦粉等、燃料等の世界的な値上がり傾向にあるというのは新聞市場、マスコミで把握しておりますけれども、今年度については今までどおりの給食費、小学校については240円でなんとか賄っていけるという、今のところは計画、現段階ですが、立てております。それがそない言うておっても、夏とかいつまたぼんと値上がってきた場合に、製品単価が当然そうなりますと、業者のほうから申し入れ等もございませぬし、主に学校給食会、県の組織ですが、そこを通じて小麦粉等を購入しておりますけれども、そこらとも十分、今後、協議の上、できるだけ値上がりのないように、私どもとしては努めてまいりたいと思っておりますけれども、市場価格を反映していかざるを得ん場合にはまた協議させていただきたいと思っております。

○議長（中上良隆君）ほかにありませんか。

3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）簡潔に質問いたします。

先ほど、枠配分方式の予算組みということの中で、今教育委員会のことが議論されておりますので、教育委員会でこの物件費を中心に、いわゆる9%、前年度費で削減したと、図書購入費、問題かなと聞いていたんですが、その他、教育予算の中でどういったところを削減したのか、主なものでいいです、聞かせていただけますか。本当は各課全部聞きたいんですけども、教育委員会について、時間もあり

ますので、お尋ねします。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）想定外の質問をいただいたので、ちょっと今パニックっておるんですけども、主には物件費の中で補助金の見直しをさせていただいたのが大きかったんじゃないかなと。あと、若干委託料の見直し等、役務費の中でいわゆる電気料だとか水道料の使用料等々、私どもご存じのように学校現場を多く抱えておりますので、それらの協力要請という格好で取り組ませていただいたかなというふうに思っております。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）確かにおっしゃるように、教育委員会管轄というのは最低必要なのか、予算組みをしているというふうに考えるわけですよ。とにかく何があっても9%削減せえと、こういうことでやられて、図書購入費のようなしわ寄せというか、出てきていると思うんですが、これは、図書購入費は3割なんですけど、次長答弁しにくいかわからんのやけど、これはどうしてもという場合に戻していくというか、そうしたことも検討していかないとだめだというふうに思うんですけどね。

少し以前、僕消耗品費の削減でテストをつくる紙代がないんやというのを紹介させてもらったことあるんですけども、こういう事態は予算全体から言えば、もっと削減できる部分があるというふうに僕目からは見えるので、そうした先ほどからの議論にもありましたけれども、どうしても必要だという分については何か何でも切っていくという態度ではなしに、よく吟味して対応していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（中上良隆君）理事。

○理事（塚本 基君）大変申しわけございません。図書費だけに今目をいかれておるとこ

ろなんですけども、以前もなしということで通過させていただいた土木費関係でも1億何千万円の減額、それから、土木の道路維持修繕でも何千万円の減額というふうな形で、トータル的にやっぱり押し並べて減額させていただいておるといふのを富岡議員、どうぞご理解していただきたいというふうに思います。

土木関係は割と大きく減額しておりますので、そこら辺も別に図書費だけが下げたというふうな予算計上になっていないというふうに考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○議長（中上良隆君）答弁もれ指摘してください。

○3番（富岡清彦君）私、申し上げたのは、どこを減らしたんだと。ここを減らして、ここを減らしたとかそんなことを問題にしておると違うんよ。どうしても必要なところについては減額すべきでないということなんよ。議会の指摘や市民の指摘とかいろいろある中で、じゃ、予算戻そうというののもあってもいいんじゃないのということを言うているのよ。その点、答えてくださいよ。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）議会の皆さんからそういう非常に切々としたご意見を承っておるわけでございます。必要なことにはやはり積極的につけなければならない予算を。特に一昨日、昨日にあわせて、教育問題について非常に厳しいご意見もございました。十分皆さんの意見を熱く受けて、今後、そういうような考え方をもってひとつ市民の皆さんの付託にこたえられるような、よかったよというようなことをひとつ進んで取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（中上良隆君）答弁の保留がございま

したので。

建設部長。

○建設部長（坂本信良君）先ほど、中西議員からご質問のございました枯れ草の処分についてご説明を申し上げます。

この処分につきましては、循環型社会形成基本法、これにのっとり、市が枯れ草について再利用していこうということで実施しているわけでございますけれども、道路関係、それから公園関係と2つに分かれてございます。

道路関係でございますけれども、岸上の長大法面等の処分費、約3万6,000㎡ございますが、これにつきましては、処分費が153万円計上させていただいております。

それから、市道の管理といたしまして、法面の草刈り等の処分でございますけれども、面積にしまして約22万9,000㎡、この処分費が773万7,000円ということで、この金額につきましては、平成18年度の決算資料に基づきまして、市の内部で将来的に、将来的というよりも20年度の予算編成に向けてどうあるべきかという議論をした中で、10%削減という方向性を出してございますので、業者の処分の単価とは異なるかと思えます。

それから、公園関係でございますけれども、公園関係につきましては、スポーツ振興公社のほうへ委託をしております。運動公園につきましては、指定管理、それから他の都市公園等につきましては、緑地も含めてなんですが、管理課のほうからスポーツ振興公社のほうへ委託をお願いしているところでございまして、これにつきましては平米あたりと、それから面積ということで2本立てで公社のほうへお願いしております。立米当たりでいきますと、立米の分が829㎡、それから平米の分が4万6,000㎡ということで、この金額が781万7,000円余の金額、合わせて、全体とい

たしまして、処分費といたしまして、1,720万2,800円という予算を計上させていただいております。

○議長（中上良隆君）ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中上良隆君）ないようですので、次に、11款、災害復旧費、12款、公債費、13款、諸支出金、14款、予備費、258ページから263ページまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中上良隆君）質疑がないようですので、歳出を終わります。

引き続き、歳入に入ります。4ページをお開きください。

1款、市税、2款、地方譲与税、3款、利子割交付金、4款、配当割交付金、5款、株式等譲渡所得割交付金、4ページから7ページまで、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中上良隆君）ないようですので、次に、6款、地方消費税交付金、7款、ゴルフ場利用税交付金、8款、自動車取得税交付金、9款、地方特例交付金、10款、地方交付税、11款、交通安全対策特別交付金、8ページから11ページまで、質疑ありませんか。

16番 中谷君。

○16番（中谷 晋君）10ページの10款1項1目について、1点だけお聞きします。

趣旨説明の中で、地方再生枠について国が大きな予算措置をしたということで、本市についても地方再生枠として約1億6,700万円の特別交付税が交付される見込みであるということで予算計上されております。

そういう格好で、地方再生枠の観点から、主たる政策、どのような主眼をもって予算措置したのか、その点だけお聞きしたいと思います。

○議長（中上良隆君）財政課長。

○**財政課長（北山茂樹君）** 中谷議員のご質問にお答えします。

議員の仰せのとおり、地方再生枠といいますが、平成20年度で橋本市では1億6,700万円ということで試算をされております。

1億6,700万円ということで、地方交付税の中に組み入れて交付されますので、ご存じのとおり地方交付税というのはその市町村の一般財源に当たるものでございまして、何に充当するかしないかというのが決められているものではございません。したがって、本市にいたしましても、1つの地方交付税として取り扱いさせていただいておりますので、一般財源として処理をさせていただいております。

○**議長（中上良隆君）** 16番 中谷君。

○**16番（中谷 晋君）** それはわかっておるんよ。わかっておるんやけども、その1億6,000万円がどういうふうに地方再生枠の施策の中に取り入れていく目的があるのかということをお聞きしています。

○**議長（中上良隆君）** 総務部長。

○**総務部長（中山哲次君）** ご答弁をさせていただきたいと思っております。

今、財政課長がご答弁させていただいたとおりでございまして、交付税の中に地方再生枠の金額が盛り込まれておるわけでございますけれども、その用途については自由ということになっておりますので、当然、今後、歳入で市税、それから交付税合わせまして、約60%前後の歳入を占めておりますので、一般会計、普通会計で。そういったことを踏まえまして、今回の歳出予算の中でもそれを踏まえた中で予算付けをさせていただいております。

ただ、どの歳出、款、項、目でどの部分でということと言われますと、非常に説明が難しい状況でございます。

ただ、国の地方財政制度の中で出てきました地方再生枠でございますので、その点は今後も予算執行をしていく中でも、また今後議論されておりますガソリンの税の問題も含めまして、柔軟な対応を予算運営をしていきたいというふうに考えておりますので、ご答弁になってないかもしれませんが、現時点で具体的にどの部分と言われますと非常に厳しいものがございまして、ご理解、また、ご答弁にかえさせていただきたいと思っております。

○**議長（中上良隆君）** ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**議長（中上良隆君）** ないようですので、次に12款、分担金及び負担金、13款、使用料及び手数料、14款、国庫支出金、15款、県支出金、16款、財産収入、17款、寄付金、10ページから29ページまで、質疑ありませんか。

3番 富岡君。

○**3番（富岡清彦君）** 13ページの教育文化会館の使用料、社会教育使用料の中にある前年度との比較で約30万円増額見込みですね。350万円となっているんですが、どういうところで増収を見込んでいるのか。聞くところでは、社会教育団体等の使用料、今まで無料であったのが有料になるのではといった声も聞こえてくるんですが、そういう点から、どこでの増収を見込んでいるのか伺います。

○**議長（中上良隆君）** 教育次長。

○**教育次長（岸田茂利君）** 今、議員ご指摘の文化会館の使用料云々については、今社会教育団体、関係団体と、それから諮問している段階でございまして、額の増額等々についてまだ決定しておりませんので、確かこの当初予算には見込んでなかったというふうに思っております。

増額になった理由というのは、ちょっと後で調べてご報告させていただきます。

○**議長（中上良隆君）** 3番 富岡君。

○3番(富岡清彦君)後で結構なんですけど、先ほど図書費の購入費の問題しかり、特に文化活動をされている団体から公の施設の使用料徴収を考えているというふうなことで心配をされて、ある団体の方が何とか無料での使用を維持してほしいんだと。橋本市の、自分たちの団体としては橋本市の文化活動をしっかりと発展させていこうとしているんだというふうな強い熱意も示されたんですけども、予算化されていないということであればありがたいですし、今後もやはりそうしたところからの文化活動についてやはり行政は守り発展させるというふうなことで、ぜひお願いしたいと思います。

これは要望にします。

○議長(中上良隆君)ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(中上良隆君)ないようですので、次に18款、繰入金、19款、繰越金、20款、諸収入、21款、市債、28ページから39ページまで質疑ありませんか。

11番 岩田君。

○11番(岩田弘彦君)29ページ、財政調整基金繰入金、減債基金繰入金、地域振興基金繰入金、この3つで、今回これ予算組みしまして、だいたい貯金を、全体でいいましたら、家庭でいうと貯金を10億円使うという予算を組んで黒字ですという形に納めようという予算になっておると思うんですが、悪いとはいいませんよ、今までこういうふうな予算の組み方しておるんですが、一体、財政調整基金、減債基金、地域振興基金、この予算どおり執行したとしたら、あと何ぼ残るんですか。3つ教えてください。

○議長(中上良隆君)財政課長。

○財政課長(北山茂樹君)財政調整基金につきましては、20年度予算どおり執行いたしますと、残額といたしましては4億589万3,651

円でございます。減債基金につきましては、1億8,335万7,551円、それから、地域開発整備基金につきましては、1,946万421円でございます。地域振興基金は2,013万2,000円でございます。

○議長(中上良隆君)11番 岩田君。

○11番(岩田弘彦君)基金ももうそろそろ底をついておりますので、その財政状況もわかった上でご苦労されて予算を組んでいるということは十分理解できますので、理解の上に予算委員会も開かんなんと思っておりますので、それも理解していただいて、予算委員会の委員の皆さんは頑張ってくださいと思いますので。

そして、次、39ページ、臨時財政対策債ですが、増額になっているということは、臨時財政対策債、増えたということかな。心配しているのは、臨時財政対策債、これ、先送りで国の出口ベースで後で返したるわと。100%返してあげるよという話だったと思います。国のほうはよく大うそをつきますので、きちんと臨時財政対策債、100%、こちらのほうに送ってきてくれているのか、今後来るのか、その辺ちょっと教えてください。

○議長(中上良隆君)財政課長。

○財政課長(北山茂樹君)臨時財政対策債につきましては、今、議員仰せのとおり、地方の財源不足を国と地方が折半して負担するというもののルールからなっております。

市が臨時財政対策債を発行することによりまして、その元利償還分については地方交付税で措置するというのが国の制度でございます。

現在のところ、その元利償還分については地方交付税で100%算入されてございます。

○議長(中上良隆君)ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(中上良隆君)ないようですので、歳

入を終わります。

それでは、一般会計予算全般について行います。

質疑ありませんか。

24番 中西健君。

○24番（中西 健君） ページ数で言えば、民生費のリサイクル奨励生ごみ堆肥、実はこれは昨年の9月に私が一般質問をしたわけですが、そのときに市民部長は減車、これは新しい年度に減車、1台になっているわけですね。これは当時、市民部長は2年かかると、こういう返事でした。私は1年以内にならんのかと言うたら、予算書見たら、半年以内で実現できておると。やっぱり言わないかんのやなど。言えば効果ができてきたなど。市民部長も就任早々でそういう判断が甘かったのか、それは認めるとしても、うれしい誤算なので、それは言いません。

そこで今年の予算の中で、質疑回数が制限されておるので調べたんですが、今年の予算、家庭用150台、それから、団体については9地区、それからいわゆる堆肥化によって生ごみを堆肥化できるt数は、目標数値というのは300t、こういう数字が出ております。これは生活環境課で聞いたんですが。

そこで、この300tというのは、可燃ごみ全体の何パーセントに当たるかということが1つと、それから、収集車1台、これから生ごみ化、堆肥化を進めていく中で、今年減車されたわけですが、1台減車するのに生ごみの処理はとれぐらい処理をしなければいけないのかというのを教えていただきたい。

それから、もう一つは、職員体制、私はそのときも市長の公約でありますので、やっぱり積極的に取り組むと。特に、事業者に対しても促進していく中で、職員に対して正規1名、嘱託2.5、0.5はバイトだと思っております、その体制でいわゆる市長の目標としている

30%に近付けるのにこの体制でいいのかどうかという判断をね。特に私は事業、いわゆるスーパー、それから市内の飲食店、こういう人たちにもやっぱりお願いするについて、これぐらいの体制でできて、目標数値を達成できるかどうか、ここらをひとつご答弁願います。

○議長（中上良隆君） 市民部長。

○市民部長（名迫文一君） まず1点目の、20年度の300t、生ごみが減量できる、それが全体の可燃ごみの何パーセントかというご質問ですが、18年度の家庭系の可燃ごみの数量で一応割合言わせてもらいます。

18年度の家庭系の可燃ごみについては、1万2,752tであります。300tですと、率にしまして2.3%という率になります。

それから、減車の効果かどとご質問だと思っておりますが、この20年度当初予算編成時には、この4月から1台減車というところまでは至っておらなかったんですが、当初予算の概算を組んでから4月から何とか1台が減車できるという見込みで進んだ結果でございます。

その効果ですが、ほとんど人件費の削減ということになってきてまして。

○議長（中上良隆君） 答弁もれ指摘してください。

○24番（中西 健君） 車1台減車するのにどれぐらいの量か尋ねておるんです。生ごみが、堆肥化。

○議長（中上良隆君） 答弁を保留して休憩いたします。

10分まで。

（午後3時58分 休憩）

（午後4時11分 再開）

○議長（中上良隆君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

24番 中西健君の質疑に対する答弁を求め

ます。

市民部長。

○市民部長(名迫文一君)大変失礼しました。

可燃ごみが、直営、委託合わせまして9台で収集しておりますので、先ほど申し上げました18年度の家庭系可燃ごみ、1万2,752tを9台で割りまして、平均的に1,416t、これだけ減少すれば1台が減らせるということでございます。

それから、人員体制のことのご質問だったと思いますが、私のほうからも答弁させていただきます。

質問の中でありましたように、19年度につきましては正規職員1名、嘱託が2名、1名は半日で、計2.5人ということですが、20年度も引き続き堆肥化事業を行うわけですが、この体制で20年度も行ってまいりたいというふうに考えてございます。

○議長(中上良隆君)24番 中西健君。

○24番(中西 健君)いじわるな質問されたという思いはあったかしらんけども、これはなぜ私言うかと言ったら、あんたが、市民部長、最高責任者としての自覚を持ってこの業務に当たってもらわないと、そういう意味でどれぐらいの意気込みがあるかという中で質問させていただいた。

この1,416tという、1台にね。1台の減車するには1,416tと、計算すると1年で300tという数値目標の中で、だいたい計算すると5年近くかかるんやな、このままやったら。そしたら、私心配しているのは、これもっと職員体制をふやすなり、もう少し人件費をつけてでも、なぜかって、私心配しているのは、今度、広域ごみでかつらぎ町から全部入ってくる中で、かつらぎ町が非常に減量化に一生懸命取り組んできたことの中で、橋本市が依然として進んでいないということになると、大変申しわけない。かつらぎ町の町民の方々

に。だから、私はスピードアップをする意味で、最後にこれはいろいろな費用もかかるわけで、これは最大の公約を掲げている市長さんに、これは少しでも期間を短縮してでも目標500tなら500tというような目標数値して取り組んでいくかどうかの、ひとつそういうところを市長さんの決意をちょっとお聞きしたいんですが。

○議長(中上良隆君)市長。

[市長(木下善之君)登壇]

○市長(木下善之君)中西健議員の質問にお答えしたいと思います。

私も市長として就任して一番驚いたのは、ごみ処理であります。これを何とか抑制しないということも毎日のように考えておるのが現状でございます。昨日も申し上げたように、できるだけ1カ月に1回の収集の交渉に私なりに努力しておりますわけですが、今お説のとおり、議会終わりましたら、関係の職員とも十分時間をかけて、いよいよ来年の4月に向けて、橋本市は投入量の量に応じての負担割合をこれから強られるわけでありますので、かつらぎ町が2万人の相当な人口の中であそこまでスムーズにやれておるということも、我々職員も反省せないかんと思うのでね。

私もかつらぎ町も聞き、見にも行っていません。何とか1つ成果を上げるように、そして、まずまずの成果で軌道に乗せて、しかし、来年の4月で終わるんやなくして、それからもさらに減量をしていくということを中心に、今後とも一層取り組んでまいりたいと思いますので、またお力添えを議員の皆さん方をお願い申し上げたいと思います。

○議長(中上良隆君)答弁が保留でございましたので、教育次長から答弁願います。

教育次長。

○教育次長(岸田茂利君)富岡議員の文化会

館使用料の増額の理由についてでございますけれども、19年度は当初予算対しまして、うれしいことに利用実績が上がりまして、収入が増えております。それで20年度の当初予算もそれを期待しまして、利用増を見込んでおるといのが理由でございます。

よろしく申し上げます。

○議長（中上良隆君）ほかにありませんか。

17番 山田君。

○17番（山田哲弥君）ページ数171で、商工費の委託料13でございます。

この委託料のことについてで、これは私は何も異議申し上げるつもりは毛頭ございませんですけども、これはやどり玉川峡温泉新築工事設計監理委託料ということで、このやどりに温泉施設をつくっていききたいというようなことだと思うんですけども、これは平成21年から2カ年でこの施設をつくってまいりたい。そのための調査費と思うんですけども、この施設についてどのような規模の施設を考えておられるのか、それについて少し説明をお願いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（仲 完治君）やどり温泉郷の施設新築工事設計監理委託料につきましては、平成20年度で地質調査費、地質調査を行いまして、20年から21年に設計をし、21年から22年で建物を完成させていきたいということでございます。

地質調査を含めました中で設計を考えていきたいというふうに考えてございますので、地盤の状況も含めまして、まだきっちりした規模については出ておりません。

○議長（中上良隆君）17番 山田君。

○17番（山田哲弥君）今のご答弁はまだきっちりした施設の内容についてはまだ決まっておらないというようなことのように聞こえました。そのとおりだと思いますけれども。

実は、ある方から、それは大阪からやってこられたお方でございますけれども、この国道371号、これ国道でございますかと。こんなこの道は村道みたいな道であって、国道371号にしてはちょっと私ら理解しかねるというようなお話を聞いたわけでございます。そんなこと、今一生懸命、府県間道路371号について、我々議員、市長、自ら先頭に立って今現在、県、国にお願い申し上げているところでございます。

そういったことで、やどりにこういう施設、立派な温泉郷というんですか、郷というよりも、温泉施設をつくっていくというふうになれば、やはり昔から見ますと河南のほう、371号については改良もされてきておりますけれども、こういう立派な施設をつくったとしても、問題は道路だと私は思うわけです。

だから、道路についても、我々議員もそうですけれども、市長も先頭に立って河南の371号について改良をやっていただきたいといったことを、これはそういうことも並行して進めていくべきではないかと、このように感じますけれども、市長、いかがでございますか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）ただ今の山田議員の質問でございますけれども、既に皆さんに報告は申し上げておると思うんでございますけれども、現在、やどりの奥から高野の区域は改修待避所といいますか、4カ所が終わりまして、現在、橋本市横座からやどりの奥までの間、18カ所、県のほうでいよいよ改良工事をやっていこうということで、待避所ですね。

それで今2カ所ほどトンネルありますね、あの奥に。あそこも今だいたい終わってしておるわけですが、全面改修というのは相当時間が要しますので、対向できる場所、今後、県としてだいたい概算3億円ぐらいになりま

しょうか。そのことを3年以内にだいたい終えるということになっておるわけですので、それをしながら、あとまた局部改良なんかしていかなるを得ないと思うのでございますが、それとあわせて、橋本市内の玉川のやどり、玉川の一体ですけれども、駐車場を現在設けていこうと。カーブのひどいところを取って、三、四十台ほどの駐車をしていこうと。そういうことも2カ所ほど実は考えておるわけでありますので、ある程度年々いくらか良くなっていくのではないかな、そういうことではございますので、これもあわせて皆さんのお力添えをいただいて、緩めることのないように、ひとつ促進方を進めてまいりたいと思います。

○議長（中上良隆君）ほかにありませんか。

12番 辻本君。

○12番（辻本 勉君）私、予算委員と違いますので、しゃべる機会はきょうしかないので、最後に一言だけちょっとしゃべりたい。後あると思いますけど。

予算の関係なんですけど、全般的にいきまして、特に先ほどから議論されています図書費の問題とか、教育関係部門がかなり私の目から見ますと減っているような気がします、大幅に。物件費を3年間で20%カットしていくという大きな目標がある中で、市長の答弁もありまして、大変しんどいかと思うんですけども、できましたら補正のほうで、今現在、補助金等につきましては2分の1の予算計上ということで、6月補正でいろいろやっていくということなんですけど、やはりきちっとした査定をしていただいて、メリ張りのある予算にしていかなとだめやと思うんです。

補助金についても、メリ張りのある補助金にしていかなと、のんびんだらりに何パーセントカットするというような形ではどうもならないと思いますので、その辺を十分お願いい

たしたいと思うんですが、そんな中で、図書の問題にしましても、私の同僚議員が質問しまして、ブックスタートにつきましても、20年度から予算化されていくということで、予算書にどこにあるんかわからんですけれども、片方でそういう取り組みをしていただきながら、片方で図書費を大幅に減らしていくという。ちょっと理屈に合わん部分があるのかなと。

また、市長が取り組まれております花いっぱい運動ということで、橋本市にいろんなところできれいな花が咲いていますけれども、その反面、裏へ行きますと公園の維持管理費が減らされて、草ぼうぼうの公園があるということも、これも事実であります。そういうこと、いろんなことを考慮しながら一貫性のある行政運営をやっていただきたいと思うんです。

特に、市長が言われておるとおり、次代を担う橋本市の子どもたちのために、青少年のためになるこういう補助金とか事業につきましては、削ることのないようにこの場をお願いをいたしたい、このように思っています。

○議長（中上良隆君）答弁は要りませんか。要望で。

11番 岩田君。

○11番（岩田弘彦君）278ページ、平成20年一般会計歳出予算経費別構成調というのかな。合併前に人件費、物件費が下がるから合併するんですということを市民の皆さんにお約束して言っておりますので、財政状況を見ましても厳しいので、だれか鬼になって言わなあかんさかいに増やすほうよりも減らすほうを言うやつおらなあかんさかいと思うて、私嫌じゃけど鬼になって言わせてもらいますが、人件費のほうで集中改革プランによりますと、定員適正化のほうはだいたい197%の達成率ということで、人は減っているんですが、

うちの場合は退職引き当てとか退職基金を積んでおりませんので、人件費の削減効果が薄いと。人件費の削減効果の薄い中でも、まず予算的に見て去年の予算よりも今年の予算はどのぐらい人件費が減っているのか、これ1点。

それと、次に、物件費です。12月に私も一般質問させていただきまして、合併当初18%、3年間で削りますというシミュレーションやっただんですが、ちょっと遅れているので、これから頑張らなくて18%、先ほど20%と言うてくれていましたけど、20%でもそれは結構でございますが、それに向かうように枠配分方式で、各部長さんに権限を与えて、やっていきますということでしたので、それがこの予算にまず物件費で反映されているのか。少なくとも6%から1割は下がってないとあかんと思うんですよ。できているのか。

もう一点、各部長さんをお願いしたいんですが、枠配分で部長さんに任すということは、部長さんが優先順位を決めて予算をつくられているはずですよ。財政課長さんだけの責任や理事とかそんなだけの責任ではないと思います、私。部長さんがめり張りをつけらなあかんわけですね、今回のやり方は。だから予算委員会におきまして、各部長さんがどういう意味でここを削ったのか、どういう意味でここを置いておいたのか、そのぐらいのことは言うてもらえるようにならなあかんと思いますので、引退される部長さんもいらっしゃると思いますが、最後のびしっとしたところを見せていただきまして、予算委員会のほうでは各部長さんがこれは私たちの部で考えて、優先順位的にこれは必要やと思ったんやと。市長に言うたら市長はそうせいと言うたんやと、これがほんまやと僕は思いますので、しっかりとそれについてはご答弁していただきたいということで、これは最後のほうは部長

さんへのお願いということで、前半の人件費と物件費に対する質問に答弁をお願いします。

○議長（中上良隆君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）平成19年度と平成20年度の当初予算比較で申し上げますと、まず人件費でございますけども、平成19年度と20年度を比較しますと、2億545万2,000円減少しております。

それから、物件費でございますけども、同じく前年度と比較しますと、3億3,416万2,000万円減少しております、率にいたしまして9.11%の減少でございます。

○議長（中上良隆君）11番 岩田君。

○11番（岩田弘彦君）人件費につきましては、人数は確実に減っていているというのはよくわかりますので、あとはスリム化して少ない人数でも市民サービスを落とさないようにご努力いただけたらいいと思うんです。

退職金のほうは今の市長が悪いわけではありません。過去からの市長が引き当てをしていないとか、基金を積んでいないとか、引き当てしている市もありますので、それはそれで要らんのやったら別にいいんですけど、その辺は上手にクリアしてもらったら結構と思います。

物件費につきましては、目標のほうはどうも達成されている、1割ほど下がっているのかな、9.9%ぐらい下がっているということなので、目標達成されているようですので、あとは先ほどお願いした各部長さんが予算委員会のときにはうちの部は、例えば僕は期待したんですが、20人でやっている仕事をどないか19人、1人はアルバイトさんおったんじゃけど、アルバイトさんにはちょっと遠慮してもらおうて、19人で頑張ら仕事する体制をとりましたよという部長さんがおられたら、私は拍手をしたいと思いますので、皆さんにお願いということで、答弁は結構でございます

ので、どうかよろしく願いいたします。

はじめこれを延長いたします。

○議長（中上良隆君）ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中上良隆君）ないようですので、これをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただ今議題となっております議案第14号については、9人の委員をもって構成する平成20年度予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思えます。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中上良隆君）ご異議なしと認めます。

よって、議案第14号については、9人の委員をもって構成する平成20年度予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することに決しました。

平成20年度予算審査特別委員会の委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により議長より指名いたします。2番 阪本君、6番 清水君、7番 中谷和史君、8番 岡本君、10番 平林君、13番 瀧君、15番 石橋君、19番 中本君、22番 楠本君、以上9人を指名いたします。

暫時休憩いたします。

（午後4時33分 休憩）

（午後4時52分 再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

この際、報告いたします。

先ほど設置されました平成20年度予算審査特別委員会委員長に8番 岡本君、副委員長に22番 楠本君が、それぞれ選出されました。

以上で報告を終わります。

この際、議長より申し上げます。

本日の会議時間は、議事の都合によりあら